

# ウクライナ避難者支援 のための情報共有会議 — 第14回議事メモ

日時：2023年7月24日（月）18：30～20：30

場所：名古屋建設業協会ビル1階会議室 & オンラインzoom

参加者：35名

\* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。

Supported by  
 日本  
財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

# 「あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク」これまでの経緯

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード(RSY) 代表理事 栗田暢之

## ●当ネットワーク活動の近況について

・愛知、和歌山、茨城、福岡・佐賀、秋田など、全国で水害が相次いでいる。震災がつながる全国ネットワーク発行の小冊子『水害にあったときに』の改定頁の挿入のお手伝いを避難者の方に連日していただき、大変助かった。

●本ネットワークは、一人ひとりへの支援を丁寧に行うために、民は民でできること、官は官でできることを情報交換しあい、より有益な支援に繋げていこうと活動している。

●現在109人の方が愛知県に避難されている(右図参照)いつ来日しようと0から生活を始めることは同じ。そのような方が安心して暮らしていくために官民連携で「情報を共有する」「お互いの過不足を補い合う」「連携・協力しあい、より有益な支援につなげていく」ことがこのネットワークの目的。

●一人ひとりの暮らし・命を守るために、どういう支援が必要か、そのためにはどうしたらよいかを情報交換するために、月1回程度開催している会議である。

●11月に「大交流会」を行う。日本での避難生活が長期化する中、1泊2日で心と身体をゆっくり休めてもらう時間と空間を提供し、市町村や各種支援団体、士業や臨床心理士、医師などにも参加いただき、総合的な相談体制を整え、以降も相談できる関係性を築くことを目的としている。(詳細は鋭意準備中)

## 愛知県内への避難者

名古屋市始め14市において109人・  
65世帯(7月1日現在)  
+岐阜県(14人)・三重県(4人)

JUCA

互いに  
連携

行政  
関係機関

あいち・なごや  
ウクライナ避難者支援  
ネットワーク

情報共有会議  
ゆるやかなネットワーク

市民・地域

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

## ●愛知県 多文化共生推進室

愛知県では新規の避難民への生活一時金とSIMカードの支給をしている。すでに在住されている方へも希望者へ寄付物品の配送を行っている。直近では、7月6日にクレシア(株)よりトイレットペーパー等の衛生用品の寄付をいただき、配送した。また「あいち航空ミュージアム」より招待券を頂き、希望者に配布予定(JUCAのLINEにて希望者を募って頂いた)。さらに、昨年につき、オンラインの日本語教室も実施予定。秋(9月ごろ)第一回開催予定で準備を進めている。

## ●名古屋市 国際交流課

名古屋市には先月末時点で61名の避難者が在住している。昨年度実施してきた「つどいの場」はJUCAに運営を委託している。また、支援マッチングや個別相談はRSYIに委託している。その他に「市民交流会」を開催、8月24日がウクライナの独立記念日のため、その近辺の日付でイベントを予定している。

避難民の状況も変わってきている中だが、行政としては来年度の事業を検討する時期。そのため、定期的にこのような会議を開催頂いているのは状況を把握するために非常に助かっている。感謝したい。

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

- あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定 NPO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

## ◎ネットワーク

- \* 物資の受け取り・お届け(野菜・食品・飲料・菓子類・雑貨類 等)
- \* 自治体訪問:2件            \* 個別訪問            \* 入管・イベントへの同行
- \* 相談事により、各種問い合わせ
- \* イベント:ライブ招待・レスリング見学 (至学館大学)・団地内ウェルカムパーティー・相撲朝稽古見学

## ◎名古屋市委託事業

- \* 支援登録窓口問い合わせ対応   \* 個別訪問   \* 各種相談対応
- \* 病院・免許センター・市営住宅の内見と契約の同行   \* ガス開栓の立ち
- \* 物資提供:保存食品・飲料・菓子類 等   \* ボクシングの練習

・レスリングの見学では、日頃遠方に住んでいる避難者が参加され、たくさんのウクライナ人同士で話す機会が嬉しかったと言ってくれました。

・相撲の雷部屋の朝稽古見学では、ウクライナ人の力士が在籍しており、避難者と交流する貴重な機会になった。

・豊田市保見団地でのウェルカムパーティー:保見団地に多くの避難者の方が在住していることがわかり、地域団体とネットワークの主催で、交流会を実施できた。なにか困ったことがあった場合に、働く場所以外で相談できる関係、地域で顔を合わせたときに挨拶できるような関係ができるといいなということを目的にした。交流会当日では、お互いに声を掛け合い、英語や日本語が通じるということがわかるとコミュニケーションが始まった。結果、すぐに挨拶したり、地域の日本語教室に参加して相談を受けたという話も聞くことができた。また、同じ職場かもしれないということがわかり、「また職場で話そうね」といったエピソードも聞くことができた。開催直前に企画したので、保見団地の他のNPOと繋がる機会を今後も作っていけるといいと思った。

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

●あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

## 【個別相談】

- \* 目の調子が悪いので眼科に同行してほしい
- \* 現在の仕事を変わりたい
- \* 市営住宅について入居に伴い家具家電の調達
- \* 提供品の運搬
- \* 在留資格の更新の為入管への同行
- \* 希望職種の求人について
- \* ガスの開栓立ち合いや支払いを手伝ってほしい
- その他諸々

## 【課題】

- \* 市営住宅入居に伴う家具家電の調達
- \* 医療サポートの必要性
- \* 経済的不安→就労に繋がっていない
- \* 心的ケアの必要性
- \* 新規支援者登録の減少：登録総件数：企業・団体：59件(0)、個人：171件(+2)  
マッチング総件数：企業・団体：75件(+1)、個人：120件(+10)

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

●あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク／認定PO法人レスキューストックヤード 加藤絢子

・名古屋市に転入したいという方が同時に数世帯ある。市営住宅の場合は、家具家電をイチから集めなくてはならないため、住めるようになるための調達に奔走しているところ。以下の表はフェイスブック(

<https://www.facebook.com/borsch.net>)で募集している必要な家具家電の情報。JUCAからも呼びかけをしていただいております、避難者さんの方で使っていない家具を提供してもよいと言ってくれる方がいらっしゃり助かっている。

2023年7月24日更新						
	Aさん	Yさん	Bさん	Mさん	Tさん	Lさん
1	ベッド	ベッド	ベッド×2	ベッド	テレビ	扇風機
2	冷蔵庫	冷蔵庫	冷蔵庫	冷蔵庫		
3	洗濯機	洗濯機	洗濯機	洗濯機		
4	ダイニングテーブル&椅子	ダイニングテーブル&椅子	ダイニングテーブル&椅子×2	ダイニングテーブル&椅子		
5	電子レンジ	オープンレンジ	電子レンジ	オープンレンジ		
6	カーテン×3	カーテン×3	カーテン×3	カーテン×3		
7	エアコン	エアコン	エアコン	エアコン		
8	ソファー	ソファー	ソファー	ソファー		
9	ガスコンロ (都市ガス)	ガスコンロ (都市ガス)	ガスコンロ (都市ガス)	ガスコンロ (都市ガス)		
10	掃除機	掃除機	掃除機	掃除機		
11	扇風機	扇風機	扇風機	扇風機		
12						

急募

エアコンはこちらで購入するため、このページよりご寄付をお願いいたします。

[https://www.aichinagoya-borsch.com/?page\\_id=7](https://www.aichinagoya-borsch.com/?page_id=7)

# 自治体、支援団体からの報告と質疑

東海市 企画部 秘書課 成田忠義さん

- 現在、2家族5名が東海市に在住している。以前はもう1家族いて8名だったが、現在は5名。大人が3名と高校生、中学生が1名ずつ。
- 前提として、東海市ではウクライナ避難民に対して特別な予算を立てているということはしていない。強いて言うのであれば、秘書課がワンストップ窓口をしている点。既存のルールや制度が当てはまるように何とかできないかという折衝を秘書課が行った。最初の世帯は、2022年3月中旬ごろに来日され、子どももいたので、様々な手続きが発生することが想定され、秘書課がワンストップでサポートができるようにした。
- 生活していく中で課題が出てきた。特に、学校への就学について。当初は学校との協議、準備物などかなり議論があったが、全て秘書課が間に入り、話を進めていった。
- 現在はウクライナに帰国した世帯だが、当時小学校1年生になる年齢のお子さんがいた。いきなり小学校に入学しても馴染めないのではないか、保育園でどうかという提案が持ち上がった。本来、その年齢で保育園に行くことはできないのだが、折衝を行い、お試し通園なども行った上で通園できることになった(当該世帯の保護者が精神的に参っている状態ということを保健師が把握しており、子どもと離れる時間が必要ということになった。保育園とも交渉し、市役所の保育園担当部署の職員が交代で保育園に出向きサポートする体制もとり、かなりのパワープレイで保育園にも対応して頂いた)
- 日本財団の生活支援金が決まる前に、取り急ぎの対応として、生活保護を活用して資金面での支援を行った。秘書課と社会福祉課で交渉・調整をして、「腹をくくって」出してもらったという経緯があった。
- 大人は就労の意欲があれば案内するということがしたが、1人希望があり、市役所の就労支援部署の職員が避難者と共に、半田のハローワークに何度も足を運び、結果、ある企業に就職し、安定した収入を得られるようになった。
- 東海市は変わった取り組みはないが、制度の中でできることを精一杯やった結果となった。
- 他には、市所有のホールでキーウのクラシックバレエ団が2年連続で講演をしており、避難者の招待を行っている。さらに、外部の方から避難者の支援・寄付をしたいというお声をいただき、そのマッチングをしている。直近では、東海市社協が集めて頂いた寄付の配布を行った。



# 日本財団の支援の状況と今後について

日本財団 経営企画広報部ソーシャルイノベーション推進チームウクライナ避難民支援室リーダー 神谷圭市さん

<日本財団のウクライナ避難民支援の目的と内容>

【3つの目的と支援内容】

- ①短期)ウクライナ避難民が安心して日本で暮らせること！
- ②中期)ウクライナ避難民が日本社会で共生し、活躍できるモデルを作ること！
- ③長期)今回の支援の経験を日本の外国人支援制度に反映させること！

\* 今回のウクライナ避難民支援は、社会的にも注目され、一種底上げされた支援がされているが、ウクライナ以外の外国人、避難民、難民、避難民以上に問題を抱えている方もいる。そういった方々のために、今回の経験を今後どう活かすか。

●日本財団が支援する身元保証人がいる避難者の方々(全避難者の9割ほど)へのアンケート結果

・第3回目に行った直近のアンケート結果では、1003人が回答し、約76%が身元保証人は個人(残りは団体が保証人)と回答している。さらに、「身元保証人がサポートする余裕があるか」という設問に「はい、間違いなく」と回答した方は14.5%しかいない。半数以上が「難しい」「わからない」と回答している。当初は、ウクライナ避難民は身元保証人がサポートするという前提があったと思うが、それは不可能に近いのではないかと思っている。その意味でNPO等の支援が非常に需要になってくる。

●無料遠隔通訳サービスの提供経験から

・医療通訳のニーズが高い。一方、オンライン通訳という仕組みに、支援者自体が慣れていない。支援団体の中でも十分に周知されていない。



# 日本財団の支援の状況と今後について

日本財団 経営企画広報部ソーシャルイノベーション推進チームウクライナ避難民支援室リーダー 神谷圭市さん

## <短期目的の達成状況>

- ①(総括)当初は受け入れ態勢の準備不足による混乱が多かったが、1年を経過し、全体的には目的は達成。
- ②大人は人間トラブルやメンタル、医療面の問題がやや散見されるものの、全体的には各地域の積極的な支援や当財団の生活給付により、生活は安定している。各地域の積極的な支援などもあり、地域でウエルカムの体制が取られているところが多い。
- ③子どもは多くの地域・学校で暖かく受け入れられている印象、日本の学校に通学できる場合(7割)は比較的元気な傾向。しかし、日本の学校に通学できていない場合、苦しい。日本の学校に通学していても、オンラインで繋いでいる場合は子どもの環境として厳しいようで、勉強が辛いといった声も聞く。アンケート結果では、思った以上に元気に過ごせている子どもが多いという印象。

## <中期目的について>

・当財団支援対象者(18歳以上)のアンケート結果では、避難先に日本を選定した動機の第1位は「日本への憧れ」。国の支援制度も一時的に避難し、いずれ帰国する想定になっているが、当財団のヒアリングでは、あこがれを持っている人、日本が好きという方が非常に多いと感じている。そうした方の選択肢は、日本に残るか、海外に移住するかであるが、アンケート第2回、第3回の結果からも「できるだけ長く日本に滞在したい」という回答が10%近く増加しており、母国の状況に関係なく、定住を考えている方が増えているのではないかと推察される。一方「なるべく早く帰国したい」と回答している方は、2.4%に留まっており、一時的な避難という前提での支援ではなく、中長期的な視点での支援が必要ということがわかる。

# 日本財団の支援の状況と今後について

日本財団 経営企画広報部ソーシャルイノベーション推進チームウクライナ避難民支援室リーダー 神谷圭市さん

## ●当財団の「日本語学校奨学金」制度について

・アンケート結果からも、非常に評価が高い。毎日学校に行って帰属意識を持ち、外出する機会が増えることによって、心理的に安心、友達が増えて嬉しいといった回答があった。単に勉強をする場ではなく、コミュニティを作る場として非常に重要であると感じている。

## ●就業支援事業について

・就業マッチング、キャリア形成コンサルティング、職場見学ツアーなどの事業を行っているが、就労状況の数字が増えない。理由としては、日本語能力とスキルマッチングのギャップと考えている。

## <中期目的の達成状況について>

①(総括)受け入れのビジョンが見えない中、中長期的な活躍・自立が十分に進まない。

②「将来像や目標を持ち、就業・進学に向けて前に進む避難民」と、「そうでない避難民」に二極化。

\* 支援提供があったとしてもどうしたらよいかわからない、モチベーションを維持できない方が一定数存在。

③避難民が希望する仕事や進学と、必要な日本語力のギャップを埋める必要があるが、十分な教育制度がない。

④親子が進路の選択肢を十分理解できていない。特に、不就学の子どもは、日本への適応が困難に。

\* 日本と海外の教育制度の違い。選択肢が理解できないと将来に関わる。

# 日本財団の支援の状況と今後について

日本財団 経営企画広報部ソーシャルイノベーション推進チームウクライナ避難民支援室リーダー 神谷圭市さん

## <長期目的について>

・実務者向けのネットワーク会議、定期アンケート実施&分析、有識者会議及び提言書の作成、シンポジウムや実証事業を行っており、今後、提言を発表予定。

## 【提言概要】入国後の共生・活躍に係る政策提言

<ビジョン>外国人が日本社会安心できる居場所を持ち、一人一人が望む形で活躍・共生できる支援。帰国した場合でも、日本での経験を活かし、母国との架け橋となれる支援

<対象者>人道的な理由等で来日した多様な外国人\*ただし、将来的に制度対象者を拡大できる制度設計とする。

<特徴>①一人ひとりに合わせた支援(アセスメント→支援プランの作成→支援のコーディネート)→子どもも大人もアセスメントや支援を通して将来像や目標を持てる仕組み

\*一人ひとり今後どうするか違う中で、支援だけ出しても繋がらない。アセスメントする中で支援者も状況を把握し、一緒にプランを作っていけるように

②官民連携で「中長期的に人を育て、活躍に繋げる」支援→希望する将来像(就業・進学)に必要な能力(日本語力・スキル等)を学び、活躍できる仕組み

・具体的な流れ \*できれば、どこかの自治体と組んで実証実験をしたい。

<来日前~直後>①アセスメントと要支援判定 ②個別支援プラン作成 ③支援コーディネート

<来日数ヶ月以内>・生活オリエンテーション・生活日本語教育・生活相談対応・子どもの就学支援(プレクラス等)

<来日3年以内>・キャリアデザインプログラム(海外で行われているように語学を数百時間学んだ上で進学就職に繋げるようなもの)

・各地域に合わせたNPO等による補完的支援 ・子どもの進学に向けた伴走支援

# JUCA (NPO 法人 日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口リュドミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

●川口リュドミラさんが6月下旬から7月中旬までウクライナに一時帰国された。現地状況を伝えていただく。

・ロシア侵攻以後、ウクライナまで飛行機は飛ばなくなった。ドイツやポーランドまで飛行機で移動し、その後、陸路で移動する人が多い。今回は、日本からドイツのフランクフルトまで飛行機、そこからジトームイルまで約 1,700キロを陸路で移動した。バスでは 30時間以上かかる。国境で待つ時間もありもっとかかる場合もある。今回、私は行き帰りで 1週間かかり、とても大変だった。

・ポーランド/ウクライナの国境までは問題なく、国境でも 3時間半の待ち時間で済んだが、早い方。10時間ほど待たされる場合もある。入国してウクライナのSIMカードを買ったが、道路の上では電波が悪い。街に入るときには、全て荷物や車のチェックがあり、写真撮影は厳禁。車にドライブレコーダーが付いていたが撮影や SNSにアップすることは禁止されている。映像がアップされてロシアに情報を与える可能性があるため。

・最初は、日本で集めた支援物資(粉末スープ、虫よけグッズ等)を渡した。避難民がそれぞれ帰国する際にも、物資を持っていってもらうことをお願いして、ウクライナ国内の郵便でジトームイルの自宅まで届けてもらった。ザポリージャの団体に寄付した。

・日本で頂いた寄付をウクライナのドローン調査を行う専門団体に渡した。

・街に出たら、手や足を失っている男性が多かった。すぐに日本から送金してもらい、ジトームイルにある軍人の治療を行う病院に薬を買う資金を寄付したり、お菓子を買って病院で渡したりした。ドイツからも支援があるようだが、すぐに資金はなくなってしまうとのことである。

・キーウ州のイルピン市、ブチャ市、ホストメリ市を訪れた( 2022年2月27日～3月28日までロシア軍に占領されていた)。元々はとてもきれいな街だったが、たくさんの破壊された建物、車がそのままになっていた。アスファルトはきれいになっていたが、建物や車は(忘れないように?)わざと残してあるのかもしれない。戦車はキーウに集めて忘れないように残しているようだ。友人の娘さん( 20歳くらい)が案内してくれたが、途中で警報やミサイルの音が聞こえると、なんの音かわかるようで私に教えてくれた。しかし、そのような若い方がミサイルの音を聞き分けられるようになっている、これがウクライナの現実であることがとても悲しい。

# JUCA (NPO 法人 日本ウクライナ文化協会)

理事長 川ロリュドミラさん、副理事長 榊原ナターリアさん

- ・その後、首都のキーウに行った。キーウには攻撃はあるが、迎撃ミサイルが機能しているようで、夜になると皆普通に生活していた。先程のイルピン市から50km程度しか離れていないという現実が信じられなかった。
  - ・1週間過ごして普通に生活ができると思った矢先、キーウで過ごした夜に初めてサイレンの音を聞いた。私はとても怖く、避難所もどこに行ったらよいかと怖かった。この日以降、ジトームイルでも毎日サイレンの音を聞くようになったが、窓から外を見ても、避難しているような人は見えなかった。次の日に学校や仕事があるから、寝ているのかもしれないし、私のように周りの様子を伺っているのかもしれないと考えてみたが、避難しようとする本当の理由は分からなかった。
  - ・サイレンが鳴っても、日中は皆普通に仕事している、子どもは保育園に行っているし、病院も開いている。ショッピングモールにいる場合は外に出されて、近くの避難所に行くことになっている。田舎では、戦争はすぐに終わるかもしれないからと普通に野菜を作っている人たちもいた。
  - ・私は自然がとても好きなので、親戚のいる田舎に行ったところ、この時期は、道端の木にチェリーがなるので収穫をしたり、蜂蜜を取ったり、うさぎを見れたりして、戦争があっても、自然は変わりなく存在していることが安らぐ時間となった。
  - ・ジトームイルでの人々の生活はこんな風だったが、ウクライナにいる全ての人がこのような生活が出来ているわけではない。
- ・ウクライナに行ってから、警報用のアプリをダウンロードした。日本に戻ってきても時々鳴るのでびっくりする。ウクライナにいる後半 1週間にサイレンを10回くらい聞いた。国境を越えてポーランドの安全な場所に移動しても、似たような音を聞いた時にびっくりした。10回聞いただけの私がこのような状態なので、ウクライナ東部の方々はどれほどのストレス、トラウマを抱えているか、想像できない。
- ・日本に避難できた人は本当に良かった。ウクライナへの支援はもっとも必要。私は、今回 4年ぶりにウクライナに行って、本当に良かった。避難民が日本に避難していても、ウクライナに一時帰国したいという気持ちもとても理解できると感じた。

# ブレイクアウトルーム共有

## ●Zoom参加メンバーグループ

- ・ナショナルジオグラフィック編集の写真集(『美しきウクライナ』)から、川口さんの話を振り返った。戦争以前の美しいウクライナの写真を見ると余計に戦争への恐怖が感じられる。川口さん具体的な話を聞いたことで、よりリアルに感じる事ができた。
- ・東海市の話を聞いて、とても柔軟に対応されていること、具体的な話で勉強になった。
- ・日本財団の話から、避難者が将来設計をしてもうまくいく場合といかない場合があると思うので、地域での細やかな支援が必要になるだろう。11月にネットワーク主催で予定している大交流会を実践の場として捉えられるといいという話し合いをした。

## ●会場参加メンバーグループ

- ・名古屋市では、日本財団よりご紹介頂いた内容と似たようなことを今後の事業として検討していたところ。また改めてご相談したい。
- ・近況報告に加えて、連携の重要性、戦争の中で障がい者の方がより困難を抱えている状況の話。川口さんの話を聞いて感じたことなどを共有した。

# ウクライナ避難者支援のための寄付にご協力をお願いします

郵便振替00810-7-215694 口座名義:レスキューストックヤード

(ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込み)

ゆうちょ銀行(金融機関コード: 9900)・〇八九(ゼロハチキュウ)店(店番: 089)

当座 0215694 口座名義:レスキューストックヤード

※領収書は認定NPO法人レスキューストックヤードからの発行となります。